

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	特別活動Ⅲ
科目基礎情報						
科目番号	2021-240		科目区分	一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 0		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	0		
教科書/教材						
担当教員	高矢 昌紀					
到達目標						
1. 技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を養う。 2. 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を養う。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる。	技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる。		技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について挙げるができる。		技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について挙げるができない。	
工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる。	工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる。		工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動できる。		工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本校の教育目的は、1. 豊かな人間性を備え、2. 社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、3. もって地域の文化と産業の進展に寄与することである。この目的を実現するために、授業計画に示す活動を通して技術者の社会的役割と責任を自覚する態度と実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢を身につける。					
授業の進め方・方法	授業内容：学級担任が定めた特別活動計画に従う。 実施場所：ホームルーム（HR）を原則とする。授業内容により実施場所がHRでない場合、学級担任の指示に従う。 評価方法：特別活動への参加（出席）の条件を満たすことにより合格とする。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	クラスおよび学生会の役員決め		自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。 社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	
		2週	自己紹介		クラスメートとコミュニケーションをとる。	
		3週	消費者センター		日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	
		4週	学年代表のお話		3年生の学年目標を説明し、自己の日々の生活を考える。	
		5週	席替え・掃除		クラスメートとコミュニケーションをとる。	
		6週	将来の仕事(作文)		自己の目標を作成し、それに向けて必要なことを考える(キャリアデザイン作成)。	
		7週	中間試験試験勉強計画表の作成		自己の目標を作成し、その達成法を考える(キャリアデザインの具体的な策の作成)。	
	2ndQ	8週	学生生活支援アンケート			
		9週	答案返却と中間試験の反省		自らが作成した目標の実施状況を自ら顧みる。	
		10週	席替え		クラスメートとコミュニケーションをとる。	
		11週	クリーン活動		自らの社会における役割を考えて行動する思考と能力を養う。	
		12週	物質工学特別実習の説明		自らの社会における役割を考えて行動する思考と能力を養う。	
		13週	前期末試験試験勉強計画表の作成		日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	
		14週	夏休みの過ごし方		キャリアの実現に向かって長期休暇中も継続的に学習する必要性を認識している。	
		15週	答案返却と前期末試験の反省		キャリアの実現に向かっての自らの反省と今後も継続的に学習する必要性を認識している。	
	後期	3rdQ	1週	夏休みの反省(報告)		キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。
2週			席替え		クラスメートとコミュニケーションをとる。	

		3週	学年集会	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。
		4週	知財寸劇	知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。 知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。
		5週	知財寸劇	知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。 知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。
		6週	後期中間試験試験勉強計画表の作成	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。
		7週	インターンシップ説明会	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。 その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。 キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。 これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。 企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。 企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 企業には社会的責任があることを認識している。 企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。 企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。 コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。
		8週	インターンシップ企業説明会	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。 その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。 キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。 これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。 企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。 企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 企業には社会的責任があることを認識している。 企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。 企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。 コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。
	4thQ	9週	席替えと後期中間試験の反省	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化し、その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。 キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。
		10週	課外教育特別講演（インターネットの使い方）	インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。
		11週	課外教育特別講演（インターネットの使い方）	インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。
		12週	学生生活支援室アンケート	

		13週	席替えと学年末試験勉強計画表の作成	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。
		14週	クラス別活動	
		15週	一年間の総括	キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	2	後1,後2
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	2	後1,後2
		情報リテラシー	情報リテラシー	インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している	3	後4,後7
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	後4,後7
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前1
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前1
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前3,後5
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前3,後5
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前2,後6,後7
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前1
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				企業には社会的責任があることを認識している。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	前4,前5,後8,後9,後10,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0